

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 56

2025年12月16日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

本校吹奏楽部が東日本大会へ出場

白梅学園高等学校長

武内 彰

小平西地域のみなさま、常日頃より本校への御理解と御協力をありがとうございます。

本校の吹奏楽部は、去る8月11日に開催された第65回東京都高等学校吹奏楽コンクールにおいて金賞を受賞し、8月15日の東日本代表選考会へと進み、65校中の3校として東日本大会の東京都代表に選出されました。

その後、(公財)小平市文化振興財団の御厚意により、10月5日にルネこだいらにおいて応援演奏会を開催していただきました。地元の皆様方の温かな応援を受けて、翌週10月12日に山形市において開催された第25回東日本学校吹奏楽大会へ出場しました。

私も一目生徒たちの活躍を見ようと、当日の朝に東京駅から山形駅へと向かいました。会場では演奏前の生徒たちには会うことができませんでしたが、3月に本校を卒業して山形大学へ進学した吹奏楽部OBにお会いすることができました。後輩たちのために、準備段階からお手伝いに来てくれたのです。また、会場では複数の本校保護者の

方々からもお声掛けをいただき、熱心にサポートしていただいていることがよくわかりました。

本校吹奏楽部が登壇し、演奏が始まりました。本校の演奏は繊細さと力強さを織り交ぜた美しい演奏が特徴です。演奏曲は吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」より、でした。本校らしい演奏で、私は内心「金賞に届いたのではないか」と思いました。生徒たちはそれを目標にして、日々の練習に励んできたのです。この日のために、練習の合間に生徒同士での対話を取り入れ、コミュニケーションをとりながら演奏の質を高めてきました。

審査結果は、残念ながら銀賞でしたが、金賞まであと2点という僅差でした。悔し涙を見せる生徒もいましたが、立派な演奏を披露してくれたとみています。後に続く後輩たちも更なる高みを目指して練習に取り組んでくれることでしょうか。関係の皆様方の御支援に深く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

小平西地区地域ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？



ふれあい交流イベント「おがワンフェスティバル」

～社会福祉法人 緑友会 地域貢献事業の取り組み～

施設長 小林 美穂

地域にお住まいの方々や地域で活躍する団体の方、企業、大学、病院、小平社協、障害者施設などが交流する機会として、またそれぞれの活動を知ってもらう機会として、第4回「おがワンフェスティバル」を開催しました。



2025年10月26日(日)は、あいにくのお天気で小雨のぱらつく日でしたが、会場では総勢80名のボランティアさんのお力添えがあり、キッチンカー、バザー、だれでも喫茶、チャレンジド(ブリヂストン)のカフェとその場でプリント、白梅学園大学の学生さんのこども広場や先生達のヤングケアラーのブース、作業所の販売、緑成会病院のインボディ体験、地元のお店のブース、小平特別支援学校の作品展等この他にもたくさんの催しが行われ、たくさんの方々が来場してくれました。

お友達を誘って来てくれた高齢者の方達やいつもだれでも食堂に来てくれている家族連れや子供達、障害者センターに通っている方や特養の利用者も来てくれました。

みなさんスタンプラリーのチラシを片手に笑顔



で楽しんでくれており、たくさんの方達がつながり、仲間がひろがり、たくさんの輪が出来たイベントでした。

た。

2026年もまた、たくさんの方たちが交流できるつながるフェスティバルを開催したいと思います。

<学生の感想>

今回のおがワンフェスティバルでは、ヤングケアラーのブースを出展しました。子どもからお年寄りまで幅広い世代にヤングケアラーについて知ってもらい、地域のヤングケアラーに対する理解や相談機関の周知を促進させることができたと感じています。また、実際に地域の方と関わる中で、地域との繋がりが支援の基盤となることを実感し、広報活動の重要性についても改めて学ぶことができました。(白梅学園大学3年 橋本遥)

白梅子育て広場も出張あそぼうかいとして、参加させていただきました！ボウリングや輪投げをして遊び、賑やかで楽しい空間になりました！また、子どもから高齢者の方まで一緒に体を動かし、笑顔あふれる温かい場となりました。(八里明日香)

モルックやろうよ！

上水新町3丁目在住 岩井 洋

モルックとはフィンランド発祥のニュースポーツ。木製の投げ棒(モルック)を投げて点数棒(スキットル)を倒す、輪投げとボウリングを合体したようなゲームです。私がこのゲームを知っ

たのは去年の10月。HCR展の会場でデモ展示しました。で、とりあえず体験。「これは普及するな！」と思いました。

それから1年、小平でもあつという間に知られるようになり、10月12日の市民スポーツまつりでは中央公園グラウンドで開催されました。申し込んだら1時間待ちと言われるほどの人気ぶり。そして11月2日、小平市文化スポーツ課の主催により、「第1回小平モルックカップ」が花小金井南市民広場で開催されました。コートは9面。出場



チームはなんと42チーム。我々チームけやきは3名で参加。残念ながら1回戦突破はなりませんで

したが。

ルールはちょっと特殊です。倒れた点数棒が1本の場合には棒にかかれた数字が、2本以上の場合は倒した棒の本数が得点となります。ゴール点は50点。チーム対抗で先にゴール点に達した方の勝利となります。ですが、ゴール点を超えたらドボンで、点数が半分の25点に減らされます。

けっこう頭も使います。50点まで「あと3点！」となると、3番棒を狙うか？3本倒すか？相手方はそれを阻止しようと3番棒を遠くに吹っ飛ばそうとするなど、いろいろと駆け引きが生じてくるので、見るだけでも面白い。モノを投げてぶっ倒すという「破壊する快感！」もあるので、ストレス解消にもなりますよ。

大人も子供も高齢者も年齢に関係なく楽しめ、多世代交流にも役立ちます。用具は1セット5000~9000円と、ポッチャよりかなりお安いです。室内でも出来



ますが、屋外だとなおよい。芝生の上だと木の棒が緑に映えて、画的にもとても

もいい感じです。

ポッチャがそうだったように、あつという間に広がるでしょう！

みんな！モルックやろうよ！

地域と“ともに”歩むCSWを目指して

小平市社会福祉協議会

こだいら生活相談支援センター 澤田 あゆみ

はじめまして。今年8月から西圏域担当のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）となりました、澤田と申します。これからよろしく願い致します。

「CSW」とは、地域の身近な相談員です。小平市社会福祉協議会こだいら生活相談支援センターに、各圏域に1人ずつ計5人配置されています。圏域とは、市内の地域包括支援センターと同じ地域の分け方のことです。私達CSWは、日頃の生活や暮らしの中での困り事のほか、地域での活動や取組などのご相談を受け止め、生活の困り事を一緒に考え、解決に向けてより詳しい機関へのつなぎや、他機関と連携を図った支援を行っています。

また、仕事や家計、住まいに関するご相談やひきこもりなど生き辛さを抱えている方のご相談で

は、主に制度の狭間にいる人の支援を行いながら、地域の誰一人取り残さない「誰もが住みやすいまちづくり」の実現に向けて、日々取組んでいます。

CSWとして働き始めて約3か月、西圏域を中心に様々な地域住民や団体の方と出会うことができました。地域のために活動されている方々が大勢いることを知り、毎日新しい発見の連続です。それぞれの地域への想いにも様々な形があり、日々感銘を受けています。豊かな自然環境、学校が多く学生のフレッシュな力、学校関係者の知識や人脈、このネットワークといった独自のつながりが、西圏域の強みだと私は感じています。

私自身は、できる限り自分の足で地域に出向き、地域住民の方と関わりながら地域の現状を知りたいと考えています。そういった現場の感覚の積み

重ねを大切にしながら、より良い西圏域に、そしてより良い小平市になるよう、皆様の力をお借り

し、ともに考えともに歩む地域の一員としての CSW を目指したいと思います。

「社会教育協会の 100 年記念のつどい」

開催されました

白梅学園大学教員 社会教育協会理事 森山千賀子

2025 年 11 月（土）に、「公益財団法人社会教育教育協会の 100 年記念のつどい」が、実践女子大学日野キャンパスの香雪記念館大教室で開催されました。社会教育協会は、白梅学園の前身の「東京家庭学園」を 1942 年 3 月に設立した法人です（のちに学校法人として白梅学園と分離独立）。

当日は、当協会の黒水理事長による主催者挨拶、社会教育団体振興協議会の御手洗会長、衆議院議員大河原氏、日野市職員岡田氏、白梅学園大学学長小玉氏による挨拶、津軽三味線の演奏、そして、前川喜平氏による記念講演「これからの社会教育～次なる 100 年を展望してから」が催されました。

第二部の懇親会では、実践女子学園前理事長・白梅学園大学現理事長による挨拶、当協会のゆかりの方々からのお話など和気あいのひと時でした。100 周年のイベントは翌 16 日も続き、平和を考える映画会（医師中村哲氏のドキュメンタリ

一映画）、人生を考える映画会（サウナのあるところ）とともにトークイベントが行われました。そして 24 日には、「自分で決められる人生」をテーマにデンマーク在住の沢渡夏代ブランド氏×武田信子氏（臨床心理士）による未来の 100 年を考えるトークイベントが会場とオンライン視聴で開催されました。

今回の記念イベントに貫かれたワードは、「未来（これから）の 100 年を展望する」だと思います。前川喜平氏の記念講演では、お孫さんの話があり、孫やその子どもたちの未来を私たちはどのように考えるのか、武田信子氏からは、これからも生きるかもしれない 30 年。よりよく生きよりよく死ぬことをいかに考えるのかなどのお話がありました。次の 100 年に向けて、社会全体で生涯を通じてすべての人の学習権という人権について考えていきたいと思います。

「よむだけじゃない 絵本のせかいを楽しもう！」

—あそぼうかい & 世代間交流広場開催—

石川慧樹(白梅学園短期大学保育科 1 年)

2025 年 11 月 29 日に、白梅学園大学・短期大学構内にて「あそぼうかい & 世代間交流広場」を開催しました。

今回はテーマを「よむだけじゃない 絵本のせかいを楽しもう！」と題しまして、桃太郎や浦島太郎など、子どもたちに親しまれる絵本を題材に展開しました。

また、今回も例年同様「うけつけ」「あそび」「せいさく」「ホッとスペース」「おわりのつどい」の五つのコーナーを設定し、それぞれが絵本を基に教室を飾り、子どもから大人まで楽しめる体験ができるように準備を進めてきました。



うけつけは「三太郎」と称されます「桃太郎」「浦島太郎」「金太郎」をテーマに、参加者さんがつける名札を準備しまし

た。浦島太郎の海の中を表現した装飾が魅力的で、すでに物語の中に入ったような心地がしました。

あそびは新美南吉の「ごんぎつね」をテーマに、秋の風物詩のかるたや手作りのポウリング、新聞紙を用いた宝探しなどを作りました。小さな方で

も遊べるような工夫を凝らし、大盛況となりました。



せいさくも新美南吉の「手ぶくろを買いに」をテーマに、自分で色やシールで飾れるきつねのお面と手ぶくろを参加者さんと一緒に作りました。参加者さん一人ひとり異なる作品となり、学生や保護者の方々に完成品を見せて喜ぶ姿が印象的でした。

ホッとスペースは「不思議の国のアリス」をテーマにし、各コーナーのテーマである絵本を参加者さんと読みました。また、アリスの舞台にあった赤く塗られたバラから着想を得て、ぬりえでは

薔薇を取り入れました。ほかのコーナーと異なり、静かで落ち着いた空間になっていました。

おわりのつどいでは、今回のテーマとなった6冊の絵本全てをまとめ、クイズ形式によるスタンプリーを完成させました。体育館全面を使用した大規模な冒険だけでなく、参加者や学生の垣根を越えたダンスタイムなど、参加者も学生も楽しめる時間となりました。

今年度最後のあそぼうかいということもあり、学生達全員の結束力が高く、また本番では参加者さんの笑顔や楽しい声がよく聞こえていたことから、とても有意義で学びのある時間を過ごすことができました。これからもこのあそぼうかいを継続し、地域の方々や子どもたちにとってよりよい時間となるよう努めていきたいです。

けやきの郷デイサービスに参加して

「第2きよか」スタッフ／白梅学園大学嘱託研究員 宮本美子

12月2日、「きよかコーラス」（今回の参加人数12名）は「けやきの郷」のデイサービスに参加して日頃の練習の成果を披露してきた。

曲目は、「ふるさと」「おぼろ月夜」「われは海の子」「虫のこえ」「もみじ」「もみの木」「よろこびの歌」の7曲。デイサービスということで、唱歌を中心に季節の移り変わりも加味して選曲した。ピアノ伴奏は私が担当した。



「きよか」は瀧口優氏が自宅を開放してくれたおかげで、一昨年「第2きよか」として再スタートすることが

ができた。以前のように食事の提供はできないが、毎回工夫して買い集めたお菓子とお茶でお客様をもてなしている。情報交換や日々の相談事などであつというまに時間が過ぎてしまい、最後の30分間で歌を歌うことになっている。前述の唱歌のほか、「卒業写真」「翼をください」「少年時代」などのポップスや、私たちの世代には懐かしい「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」など色々歌ってきた。

昨年、白梅学園大学の学園祭で歌ってから、今

回は2回目の発表の場となったが、まあまあ何とかにぎやかに歌えたと思った。が、しかし、最後に「何かリクエストはありますか？」と来所者にきいたところ、「皆さんの合唱が聴きたい」という返事だった。私たちは斉唱しか歌ったことがなかったので、とっさに「見上げてごらん…」を斉唱してお茶をにごした。今回の訪問をきっかけに「もみじ」の二部合唱の練習をしてみようかと思っている。

正直、自分たちのほうが若いし、来所者よりは活動的だと思っていたところ、「合唱を！」とリクエストされたことで、まだまだ勉強がたりないなあと、痛いところをつかれた格好であった。



最優秀賞(全国1位)2部門2連覇達成!

世界大会最優秀賞(1位)

鉄道模型デザイン班顧問 中澤亜紀

鉄道模型の甲子園と呼ばれる「全国高等学校鉄道模型コンテスト 2025」において、昨年度に引き続きモジュール部門と1畳レイアウト部門の2部門で最優秀賞を受賞しました。



モジュール部門最優秀賞の副賞として、ドイツのシュトゥット

トガルトで行われた『ヨーロッパNスケール・コンベンション』(世界大会)に招待され、今年も世界大会に出場することができました。結果は、最優秀賞(1位)。昨年度に逃した世界1位を今年を受賞することが出来ました。清修中高一貫部が創立20周年を迎える記念すべき年に、“日本でも1位”、“世界でも1位”を受賞できたことは、生徒にとって生涯忘れられない経験となりました。

全国高等学校鉄道模型コンテストのメインとなるモジュール部門は、既定の60×60cm(曲線)または90×30(直線)のボードの上に各学校の想いを1/150スケールで作り込んでいきます。昨年度も最優秀賞を受賞しているため、ライバルは自分たち自身。同時に2連覇の記録を達成することができるのも私たち清修中高一貫部です。先輩から受け継いだ「妥協しない」をモットーに今年の舞台に

選んだのは、まだ過去に作ったことのない”紅葉の風景”がメインとなる昭和30年代の栃木県日光市。路面電車の日光軌道線を配置し、神橋で執り行われている煤払いの様子も忠実に再現しました。いろは坂には、ちょっとした仕掛けを用意。大迫力の華厳の滝にはアクセントに虹をかけました。ストーリーを全ての場面に盛り込んだ模型は、見る者を飽きさせないだけでなく、昔を懐かしんで会話を楽しむツールとしても、ご覧いただけます。

世界大会には、13か国24チームが参加していましたが、学生が参加していたのは清修中高一貫部だけでした。現地では3日間、午前と午後1回ずつ来場者に向けて英語でプレゼンも行いました。在ミュンヘン日本国総領事館の方や、在シュトゥットガルト日本国名誉領事事務所の方にも物怖じせずプレゼンする姿は、とても立派で誇らしかったです。ドイツでワークショップを行って分かったことは、模型作りは最高のコミュニケーションツールであり、言葉は必要がないということ。趣味を通じて人は、意思疎通ができることの素晴らしさを痛感しました。17歳でドイツを訪れ、人の温かさや優しさ、文化の違いを知りました。人との出会いは、人生を豊かにしてくれることを体験し、大きく成長して帰国しました。

このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。また、クラウドファンディングをはじめ、この活動にご理解ご協力、応援してくださる全ての方に心より感謝します。

災害用トイレトラックの完成お披露目!

白梅学園 施設管理課 中村有喜

小平市は能登半島地震の教訓を踏まえ、災害用トイレトラックを都内の自治体では3番目の導入とのことです。そのお披露目が9月25日に小平市役

所であり、学園からは、小玉学長、細江理事、午頭准教授、金沢課長と小職で出席をしました。今回の災害用トイレトラック導入にあたって、白梅

学園大学/白梅学園短期大学も、小平市のクラウドファンディングに寄附をさせていただきました。

学園では今までも能登半島地震での災害ボランティアの活動、またそれ以前から行ってきた「福島キッズプログラム」などで交流を深めた東日本大震災の被災者との繋がりの中でも培われた「人を想う」という学園が今までもこれからも大切にすることを寄附という行為を通じて届けられたものでもあったと感じられました。

その他、12月6日には、小平市社会福祉協議会と小平青年会議所と一緒に防災イベントを開催しました。「災害用トイレトラック」のほか、国道交通省の「自然災害体験車」や「降雨体験車」、「LED ランタン作り」、「炊き出し」、「非常用食品」

などの配布もあり、多くの来場者で賑わいました。

いま、白梅学園大学/白梅学園短期大学では、地域に根差した活動の一つとして「白梅防災プロジェクト」を立ち上げ、社会的に弱い立場に置かれている方々、また地域の事情に合わせた、普段から顔の見



える地域防災の在り方への取り組みをはじめております。

白梅学園大学短大同窓会主催の講演会を開催しました

白梅学園大学・白梅学園短期大学 同窓会 熊田友里子

講師に上野千鶴子氏をお招きし、「親の介護・自分の老後：超少子高齢社会のなかで」というテーマでご講演いただきました。講演会・総会には同窓会各支部長をはじめ、同窓生、現役学生、地域の皆様が来場され、J棟26講義室がいっぱいになりました。

講演は始終笑いに包まれ、とても勉強になり納得感のあるお話でした。少子高齢化、核家族化の進む社会の中で、高齢世帯も一人暮らしが急激に増えてきています。ニュースで孤独死が度々取り上げられる中で、今後一人暮らし高齢者はどのように生活し、どのように人生の終盤を迎えるのか。誰もが少なからず不安を抱えると思われるこのテーマに、とてもポジティブに、むしろ一人暮らしの方が良いのだ！というのが今回の講演です。その理由としては、一人暮らしの方が圧倒的にストレスが少ない。介護保険サービスを受け入れる心理的ハードルが下がる。家族に気を遣わずにすむ自由な暮らしになること。介護保険制度があれば、

親も子どもも安心して別居し、それぞれの生活を大切にできます。上野氏は「在宅ひとり死」という言葉を作り、選択的な在宅での死を、孤独死と明確に分けました。亡くなる瞬間に立ち会いがなくても、あまり時間がたたずに見つけてもらえればそれでよいという考えです。

私は現在、地域包括支援センターで働いています。一人暮らしの高齢者支援を考える上で大切なことは、家族以外の友人や地域にも信頼できる人間関係を自分なりに作っていくことです。そうした方々のちょっとした気づきが、高齢者になり何か困ったときに大きな力になります。地域でのつながりは、ひとりひとりの生活の安心に直結しています。

最後に、卒業生の皆様、地域の皆様へ。同窓会では講演会などのイベントを開催しています。情報は同窓会通信とInstagramで更新しています。ぜひお越しください。

◆11月、文化の日に因んで 金田利子

- ・人類が築き上げた文化こそ 貧富の差なくすべての人に
- ・日々紡ぐ暮らしの文化こそ命 根こそぎ壊す戦争はNO
- ・憲法の25条は不可欠で 最低限度の基準高めん
- ・子育ても介護も文化創る日々 これを受け継ぎ人類永遠に

◆12月2日(火)けやきの里を「第2きよか」の「合唱団」(?)の一員として尋ねて

- ・歌う人聴きつつ共に歌う人 歌声つないで里にぎやかに
- ・生きているだけが仕事じゃない日々へ デイケアラーの工夫は続く

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております!

① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)

② ほっとスペース第二きよか

毎月第1月曜 13:30~15:30 参加費 200円 (移転先:小平市小川町1-755-2-106) 問合せ:瀧口優 TEL:080-3450-6878

*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

*第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、1月5日、2月2日、3月2日、4月6日)13時30分~15時30分です。

③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日)13:30~15:30 中島地域センター 参加費100円

④「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館) 問合せ:奈良 勝行 (講師募集中!) TEL:090-4435-4306

9月からは火曜日も中学校3年生用として開室しています。

イベントの予定

- ・01月11日(日)11時~ だれでも食堂ゆらり(小川西町公民館)
- ・01月25日(日)11時~ だれでも食堂おがわん(小川ホーム)
- ・02月01日(日)11時~ だれでも食堂ゆらり(小川西町公民館)
- ・02月22日(日)11時~ だれでも食堂おがわん(小川ホーム)

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 01月13日(火)18時~
- 地域世話人会: 01月27日(火)18時~
- 大学世話人会: 02月24日(火)18時~
- 地域懇談会: 03月07日(土)15時~

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠 細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

西ネットの世話人を募集しています。瀧口まで連絡してください。(takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp)

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で56号を迎えます。西ネットのスタートから13年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。